

「南海トラフにいかに向き合うか」

日本学術会議がシンポジウム開く

日本学術会議は2日、
 「南海トラフ地震に学界
 はいかに向き合うか」と
 題したシンポジウムを開
 いた。中央防災会議が発
 表した被害想定を踏ま
 え、土木、建築、防災、
 社会経済などの幅広い分
 野の学識者や専門家が集
 まり、減災をテーマに意
 見を交わした。

据えて日本
 学術会議が
 開く初めて
 のもの。南
 海トラフ地
 震の被害を
 完全になく
 すことは難しいが、減災
 の視点を取り入れ、人的
 ・経済的被害の軽減に取
 り組むことは重要」と話
 した。



日本学術会議の大西隆
 東京大学名誉教授は写真
 には「シンポジウムは、
 南海トラフ地震を正面に
 原洋文内閣府政策統括官
 (防災担当)が南海ト
 ラフ地震の被害想定と
 対策について説明した
 後、米田雅子慶應義塾
 大学特任教授をコーディネーターとして、各学会
 の代表者によるパネルデ
 イスカッションが行われ
 た。